

## 診療所実習を通して学んだこと

あかりこどもクリニック 3年 KI

私は、7月15日の1日間、「あかりこどもクリニック」に、診療所実習に伺った。あかりこどもクリニックは、地域の子育てをあたたく見守る“あかり”になればという思いが込められた、地域に根ざした子どものためのクリニックである。診療科目は、小児科の他、アレルギー科、予防接種、発熱、喘息、アトピー、食物アレルギーなどである。また、インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、溶連菌、血液検査、食物負荷試験といった検査を受けることができる。

今回の実習を通し私は、さまざまな症例や検査の見学、クリニックの環境や患者と医療従事者とのコミュニケーションから多くの学びを得た。

まず午前中は、医療事務の方々の仕事見学、院内の見学や掃除を行った。医療事務の見学では予防接種の受付や事務作業、受付業務といった仕事内容や医療者それぞれの職の分担について学習した。実習日は、医療事務4名、看護師1名、医師1名でチーム医療を大切にしながら業務を行っていた。例えば、患者がいらしたら、まず医療事務の方による症状や発熱の有無を問診し、その後、看護師により検査が行われ、採血や診断を医師が行っていた。このようにトリプルチェックをすることで、各職種が連携し、支え合うことができ、ミスを防ぐことができると学んだ。また、医療事務の方と同行した中でも印象に残っているのは、予防接種の受付である。予防接種は、ワクチンによって接種する間隔や時期、回数が定められているため、注意して確認する必要がある。そして接種前に受付にて、過去1週間以内の発熱の有無、接種当日の発熱の有無を確認もされていた。あかりこどもクリニックでは、感染症拡大予防の観点などから、予防接種の受付は本来の外来の玄関口と別の玄関口から案内していた。また、待合室も風邪や熱を症状として抱えて来られる方と部屋が分けられて用意されていた。これは予防接種を目的として来院されたのに、他の病気に院内で感染することを防ぐための工夫の一つであり、臨機応変な対応力が求められると学んだ。これらから、来院された方が安心できるような配慮がなされているのだと実感した。また、院内の見学では、子どもも親御さんも安心して過ごしやすいような環境づくりがなされていると実感した。例えば、診察室の壁には、病院のマスコットキャラクターであるうさぎのシールが貼られており、どこにいるか探すといった楽しみが設けられていた他、少し体を動かすことができるようなスペースが確保されていた。至る所に子どもの好むような工夫を施すことで、病院への不安や痛みの恐怖を軽減し、病院へ行くことへの楽しみを見出せるよう促しているのだと学んだ。

次に午後は、10ヶ月定期健診に同行したり、院長の診察の様子を見学した。10ヶ月健診は、生後10ヶ月の乳児を対象として月1回行われており、医師、看護師、保健師により行われていた。生後10ヶ月では、人見知りが緩和し始め、つかまり立ちができるようになる。また、空中で仰向けになった際に自然と両手を伸ばし、身体を守ろうとするパラシュート反射を実際に見学することができた。まだ小児科の授業を受けていないため、初めて見聞きする疾患である陰嚢水腫を実際に見学させていただき、陰嚢が風船のように腫れ、光を当てると透光性を持つという点がとても驚きであった。今後授業で触れる際には、この経験を踏まえ更なる学びに深めたいと感じた。また、保健師さんと同行させていた際には、親御さんとのコミュニケーションが大変大切であると学んだ。育児による精神的な疲労をケアするの

保健師の役目であると知った。赤ちゃんの様子、成長過程を観察するのはもちろんのこと、育休が取れている状況にあるか、育児に旦那さんは協力的であるか、一人で不安を抱え込んでいないか、寝かしつけなどその他困っていることはないか聞き出し、子育ての不安に寄り添い、心もケアできるようにコミュニケーションを取ることが大切だと学んだ。最後に、院長の診察の見学では、アイコンタクトしながら、「話をきく」ということが、診察にあたり、最も重要なことだと学んだ。院長のお話によると、診察において問診が 9 割を占めるそうだ。これは小児科においては、患者は小児であるが、自分の症状についてまだ上手く伝えることができない年齢であり、生活を共にする親御さんからの情報が診断の材料となる。また、小児は幼稚園や保育園などで日中を過ごしており、これらの場所から病気に感染することも多いという。したがって、感染性のものが疑われる場合には、問診の中で生活の様子や、周りで流行っているものがあるかといった様子を聞き取り診断に活かすことが大切であると学んだ。また、話の最後に、何かききたいことがあるか再度きくことで、患者の疑問や不安を解消するだけでなく、見落としも防ぐことができると学んだ。

これらのことから私は、患者やその家族の視点に立ちながら、深い洞察力や観察力のもと、コミュニケーションを重視した的確な診察が求められているのだと学んだ。また、地域の診療所として、病院の過ごしやすい環境づくりや、思いやりの心をもつことで、病院が安心して来院できる場所となる役割も担っているのだと学んだ。また、私は今回の実習の中で、医学的な知識の不足を痛感した。したがって今後、第三学年として小児科を臨床講義で学ぶが、今回実際にさまざまな症例を見学させていただいた経験を踏まえ、講義や今後の学習の中で、更に疾患への理解を深め、勉学に精進していきたい。

最後に、お忙しい中、病院実習という貴重な機会をいただき、北原先生をはじめとするあかりこどもクリニックの皆様から感謝申し上げます。末筆ながら、貴院のますますのご発展をお祈り申し上げます。